

# 厚木地域の小児等在宅医療にかかる 取組みと地域の課題

## 第1回厚木地域小児等在宅医療連絡会議 事前調書

機関名：厚木医師会

### （１）各関係機関の小児等在宅医療（医療を必要とする小児の在宅生活）にかかるこれまでの取り組み（※取り組みについてのパンフレットや資料があればお持ちください）

平成 25 年度「発達支援あり方検討委員会」に参加し、「厚木市の療育支援の在り方についての提言書」～発達に不安のある親子が地域の中で幸せに暮らせるように～を作成し、市へ提出  
乳児健診、療育担当者との意見交換会を毎年開催

### （２）厚木地域の課題（項目名）

- ① 小児の在宅医が少ない
- ② 関係機関とのネットワークが構築されていない
- ③ 短期入所・放課後等の利用可能な施設が少ない
- ④ 厚木市に在住する小児等在宅医療を必要とする子ども達の実態が不明

### （３）課題の具体的内容

①小児の在宅医の不足に関して。新規小児科専門医の開業がほとんどなく、小児科医が高齢化しつつある。予防接種、乳児健診、日常の診療等余裕がないのが現状。厚木医師会内に在宅を推進するための委員会を昨年度から発足させ、また今年度から居宅相談事業を開始する予定。高齢者の在宅診療だけでなく、内科医も参加できる体制作りを検討していきたい。

### （４）課題解決に向けて障壁（原因）になっていること

※課題解決に向けて原因となっていることについて記載してください。

※1 記載幅は、適宜調整してください。

## 第1回厚木地域小児等在宅医療連絡会議 事前調書

機関名：厚木市立病院 小児科

### （１）各関係機関の小児等在宅医療（医療を必要とする小児の在宅生活）にかかるこれまでの取り組み（※取り組みについてのパンフレットや資料があればお持ちください）

こども医療センターからの在宅小児医療の依頼あり、2症例について外来フォロー中  
緊急時には救急外来で対応している  
こども医療センターや神奈川リハビリテーション病院との連携  
厚木市重度障害児メジカルショートステイ事業あり

### （２）厚木地域の課題（項目名）

- ①担当者が個別に対応している、
- ②在宅医療が可能な施設が少ない
- ③専門医療の継続、療育の導入
- ④患者家族への心理的なサポート
- ⑤小児期から成人期への移行

### （３）課題の具体的内容

- ①担当者(担当医師、担当看護師、MSW)が個別に対応している。経験に頼り過去の事例を参考にしにくい
- ②小児科医にとって在宅医療は未知の分野、医療/福祉/教育の連携が少ない
- ③専門医療の継続が困難なことがあった。症状のため療育が導入できない。
- ④家族への心理的なサポートが継続できない
- ⑤成人になった重症心身障害児者を受け入れる事が困難であり、小児科が担当せざるを得ない

### （４）課題解決に向けて障壁（原因）になっていること

- ①過去の事例が参考にできていない、情報の共有がない
- ②経験不足、連携が不足している
- ③各施設/個人の能力の限界
- ④担当者が不在
- ⑤内科医との連携ができていない

※1 記載幅は、適宜調整してください。

## 第 1 回厚木地域小児等在宅医療連絡会議 事前調査

機関名：厚木市立病院 患者支援センター

### （１）各関係機関の小児等在宅医療（医療を必要とする小児の在宅生活）にかかるこれまでの取り組み（※取り組みについてのパンフレットや資料があればお持ちください）

※各関係機関の小児等在宅医療にかかるこれまでの取り組みについて記載してください。

○退院調整依頼を受け、調整をする。

- ・医療処置指導は、担当看護師がその都度、パンフレットを作成している。
- ・退院前カンファレンスを関係者と実施する。

○メディカルショートステイの受け入れ。

○衛生材料を病院購入し、準備した。

### （２）厚木地域の課題（項目名）

※小児等在宅医療を進めるにあたっての厚木地域の課題について、別添 1 「茅ヶ崎地域における小児等在宅医療の課題」を参考に、課題（項目名）を記載してください。（例：「1 在宅医療の支援体制の構築サポート体制」）「茅ヶ崎地域における小児等在宅医療の課題」一覧に記載がないものでも構いません。

①小児の在宅医が少ない。

②関係機関やネットワークについて情報不足、周知が必要。

③レスパイトやデイサービス、見守りなど利用したいが希望通りのサービスがない。

④当院は人員削減あり、MSWも少ないため、対応に苦慮している。（衛生材料の準備も必要）

### （３）課題の具体的内容

※（２）で選択した課題（項目名）についての具体的な内容を自由に記載してください。

①→在宅医が少ない、あっても連携したことがあまりない。関係機関がどのような受け入れができるか情報交換が必要。

②③→福祉、障害それぞれの制度により窓口が違うといわれ、病院でも戸惑ってしまう。窓口が一つになるような仕組みや連携、コーディネーターがほしい。

また児の成長に合わせて厚木市内にどのような支援があるか、知識や情報の整理が必要。

④専門病院ではないため、小児用の衛生材料の準備に時間を要することがある。また前医で渡された物と同じ物を希望され、調整に困る。

### （４）課題解決に向けて障壁（原因）になっていること

※課題解決に向けて原因となっていることについて記載してください。

○在宅医や支援サービス関係と情報交換をする機会を設けてこなかった。

○衛生材料については病院の診材会議の承認が必要。

## 第 1 回厚木地域小児等在宅医療連絡会議 事前調査

機関名：訪問看護ステーションもみじ

### （１）各関係機関の小児等在宅医療（医療を必要とする小児の在宅生活）にかかるこれまでの取り組み（※取り組みについてのパンフレットや資料があればお持ちください）

※各関係機関の小児等在宅医療にかかるこれまでの取り組みについて記載してください。

- ・厚木市内において小児・重症心身障害児者の訪問看護を積極的に受け入れをし、訪問看護分野において受け皿の役割を担ってきた
- ・厚愛訪問看護部会での「小児訪問看護の実際」を発表や小児訪問看護の訪問依頼がある際には 2 か所のステーションと一緒にという選択をとり、受け入れ可能なステーションが 1 箇所でも増えるよう働きかけた
- ・各病院の退院調整看護師との連携
- ・障害福祉課、保健福祉事務所、障害者総合相談室と連携
- ・小児懇談会の開催（障害児者とその家族、行政、各関係機関との橋渡し）
- ・H28 年 4 月医療ケアがある重症心身障害児者の方が利用できる「多機能型事業所にじいろ」を開所

### （２）厚木地域の課題（項目名）

※小児等在宅医療を進めるにあたっての厚木地域の課題について、別添 1 「茅ヶ崎地域における小児等在宅医療の課題」を参考に、課題（項目名）を記載してください。（例：「1 在宅医療の支援体制の構築サポート体制」）「茅ヶ崎地域における小児等在宅医療の課題」一覧に記載がないものでも構いません。

- ①サポート体制
- ②人材育成
- ③場の確保
- ④医療・福祉資源の情報の把握と共有

### （３）課題の具体的内容

※（２）で選択した課題（項目名）についての具体的な内容を自由に記載してください。

- ①サポート体制
  - ・小児・重症心身障害児者の受け入れ可能な訪問看護ステーションが少ない
  - ・吸引可能なヘルパー事業所が少ない
  - ・関係機関とのネットワーク継続
    - ⇒行政等では数年ごとの異動があり、関係構築ができて途切れてしまうことがある。継続してける体制が必要。
  - ・福祉現場での医療従事者の確保

## ②人材育成

- ・小児、重症心身障害児者（医療ケアが必要であれば特に）対応可能な看護師や介護職員不足 ⇒ 知識・技術的なことも含めて
- ・コーディネーターが不在、相談事業所数が圧倒的に少ない

## ③場の確保

- ・短期入所、放課後等デイサービス、生活介護の利用可能な施設が少ない
- ・メディカルレスパイトにおいて、急な夜間や週末における対応が困難である

## ④医療・福祉資源の情報の把握と共有

- ・医療従事者は福祉資源（障害関連）の知識が乏しく、行政や福祉分野は医療的な関連知識が乏しい（双方で補いあえるよう関係性の構築や情報共有していく必要がある）
- ・在宅で生活している障害児者のその家族への情報提供  
⇒医療重度のお子さんのご家族ではあれば、問い合わせすることも、行政へ足を運ぶことも困難な人が多い。在宅サービスを利用している人であれば、サービス機関が情報提供者とならなければならない。また、行政や関係機関は、フットワークを軽くし、窓口へ来られなければ自宅へ伺うことが可能になっていくことも求められる。

※課題解決に向けて原因となっていることについて記載してください。

- ・訪問看護においては、ステーション内に経験者がいない、相談できる人がいない、得意なステーションが受けて欲しい、小児や重心における知識や技術不足、依頼がない等の理由が考えられるのではないかな。
- ・施設においても同上の理由が考えられ、施設に一人の看護師配置で「負担感」「わからない怖さ」「責任の重圧」が加わり離職に繋がっているのか…と想像する。
- ・小児や重心の研修等は興味関心がなければ申し込むことに繋がらない。身近な勉強会の開催が必要か
- ・小児・重心に関わる連絡協議会等（医療も福祉も行政も含めて）体制をまずつくることでは。

※1 記載幅は、適宜調整してください。

### （１）各関係機関の小児等在宅医療（医療を必要とする小児の在宅生活）にかかるこれまでの取り組み

- ・母の外出時間の確保や介護相談のため、長時間訪問看護の実施。
- ・医療機関との退院時カンファレンスへの参加。
- ・普通校の特別支援級に通学している児への対応について、学校、保健師、療育園の地域担当の方、PT、養護学校の先生、訪問看護師で研修を１～２回/年行っている。

### （２）厚木地域の課題（項目名）

- １ 関係機関とのネットワーク構築
- ２ 医療（在宅医 看護師）のサポートが受けにくい
- ３ コーディネーター（主たる相談者）が不在

### （３）課題の具体的内容

- １ 顔が見える関係が作りにくい。関係機関が多く、把握が難しい。母が把握していないと、情報がとりにくい。
- ２ 呼吸器管理や、全身管理が必要な児の在宅医を探すことが難しい。大学病院等に通院している児が多いが、受診時、母が一人に対応することが多く、運転していると吸引などの対応が出来ない。介護タクシー等は金銭的に厳しい。小児対応ができる訪問看護ステーションが少ない。
- ３ 関係機関で集まって相互で解決したい課題があった場合、誰が中心となって連絡をし、会議を開くかが決定しにくい。ヘルパーなどのサービスを利用する際、対応してくれる事業所を探すことが難しい。母が直接依頼や調整をしている現状がある。どのようなサービスが使えるかの把握も困難。

### （４）課題解決に向けて障壁（原因）になっていること

- ・小児の訪問看護に関するアドバイザーが少ない。
- ・介護保険のケアマネージャーのような調整役がおらず、情報量が少ない。
- ・担当者会議等の機会が少なく、招集をすることも難しい。

## 第1回厚木地域小児等在宅医療連絡会議 事前調書

機関名：厚木保健福祉事務所

### (1) 各関係機関の小児等在宅医療（医療を必要とする小児の在宅生活）にかかるこれまでの取り組み（※取り組みについてのパンフレットや資料があればお持ちください）

※各関係機関の小児等在宅医療にかかるこれまでの取り組みについて記載してください。

#### ○ケース把握

- ・小児慢性特定疾病事例：医療機関より連絡, 医療費助成申請
- ・育成医療申請事例：平成24年度まで
- ・未熟児事例(低出生体重児および養育医療申請児)：平成24年度出生児まで

#### ○支援ケース数（管内5市町村）

- ・在宅医療機器装着児(人工呼吸器・在宅酸素・吸引・経管栄養・自己導尿・シャント等)  
平成27年度 29 ケース      平成26年度 35 ケース      平成25年度 44 ケース

#### ○支援内容

- ・家族支援、育児支援
- ・口腔機能発達支援(摂食機能発達相談)
- ・就学支援
- ・地域資源紹介、関係機関調整、療育機関調整、学校調整、訪問看護ステーション調整
- ・災害時個別支援計画作成支援
- ・情報提供

#### ○支援方法

退院前カンファレンス、家庭訪問、病院訪問(同行受診)、学校訪問、療育同席、関係機関との連絡  
電話相談、メール相談 等  
交流会、講演会

### (2) 厚木地域の課題（項目名）

※小児等在宅医療を進めるにあたっての厚木地域の課題について、別添1「茅ヶ崎地域における小児等在宅医療の課題」を参考に、課題(項目名)を記載してください。(例:「1 在宅医療の支援体制の構築 サポート体制」)  
「茅ヶ崎地域における小児等在宅医療の課題」一覧に記載がないものでも構いません。

#### ○外出困難児へのサポート体制が不足

#### ○利用可能な短期入所施設・母子分離で利用できる児童発達支援・放課後支援等が不足

#### ○利用可能な保育園、幼稚園が不足

#### ○緊急メディカルショートの実用性に限界がある



### (3) 課題の具体的内容

※(2)で選択した課題(項目名)についての具体的な内容を自由に記載してください。

○外出できない児へのサポート体制が不足

・訪問診療　・訪問療育

○利用可能な短期入所施設・母子分離で利用できる児童発達支援・放課後支援等が不足

・短期入所施設は、北里東病院、七沢療育園、神奈川病院、ワゲン療育病院長竹　が考えられるが、条件があうところを探す大変さがある

・母子分離で利用できる児童発達支援、放課後支援は、2ヶ所程度で受け皿が不足。

・兄弟児の学校行事等で直前(1ヶ月以内)に学校から予定が連絡される場合など、短期入所の予約を入れにくい(気持ちの上で躊躇)

○利用可能な保育園、幼稚園が不足

・看護師が常勤している保育園、幼稚園は少ない

○緊急メディカルショートの利用に限界がある

・母の急病等で活用できるが、その時の状況により1泊しか利用できなかったこともあった。

### (4) 課題解決に向けて障壁(原因)になっていること

※課題解決に向けて原因となっていることについて記載してください。

○「訪問診療」という発想がない

家族も支援者(保健師等)も、訪問診療を求めたことがない

○「訪問療育」の体制がない

療育体制のマンパワーも不足

○放課後支援等の福祉現場で医療従事者が不足

看護師がいた事業所でも、定着しない現状

○保育園、幼稚園で看護師が常勤するための行政のサポートはどうなっているのか?

○緊急ショートのベッド確保が困難

※1　記載幅は、適宜調整してください。

## 第 1 回厚木地域小児等在宅医療連絡会議 事前調書

機関名： 厚木市健康づくり課

### (1) 各関係機関の小児等在宅医療（医療を必要とする小児の在宅生活）にかかるこれまでの取り組み（※取り組みについてのパンフレットや資料があればお持ちください）

※各関係機関の小児等在宅医療にかかるこれまでの取り組みについて記載してください。

個々のケースについて、医療機関から送付いただく継続看護依頼や未熟児訪問連絡票等により把握し、医療機器を使用されている対象児のサービス利用に係る調整や保護者支援等で関わりを持たせていただいております。

### (2) 厚木地域の課題（項目名）

短期入所・一時預かり等の利用可能な施設が少ない。

### (3) 課題の具体的内容

※(2)で選択した課題（項目名）についての具体的な内容を自由に記載してください。

医療機器は使用していても、重症心身障害児には該当しない場合、保護者の体調不良や兄弟の受診等で保護者が対象児童のケアができない時に利用できるサービスがなく大変苦慮をしました。

### (4) 課題解決に向けて障壁（原因）になっていること

※課題解決に向けて原因となっていることについて記載してください。

サービス提供施設に医療職がおらず受け入れが困難等の理由

本市の母子保健担当では、平成 25 年度母子保健法改正による未熟児訪問指導が県から移管されたことに伴い、在宅酸素（サチレーションモニターの利用を含む）や経管栄養を利用されている方への訪問指導は実施しておりますが、現在のところそれ以外の医療機器等を利用されている方について医療機関からの継続看護等の依頼をいただいたことがありません。

※1 記載幅は、適宜調整してください。

## 第1回厚木地域小児等在宅医療連絡会議 事前調書

機関名：厚木市障がい者基幹相談支援センター

### (1) 各関係機関の小児等在宅医療（医療を必要とする小児の在宅生活）にかかるこれまでの取り組み（※取り組みについてのパンフレットや資料があればお持ちください）

※各関係機関の小児等在宅医療にかかるこれまでの取り組みについて記載してください。

平成19年～26年、厚木市・愛川町・清川村障害者自立支援協議会 発達支援部会 重症心身障害児支援ワーキングの中で、課題の抽出などを行ってきた。

具体的には、当事者会（親の会）でアンケートを実施し、困り感や必要なサービスについて聞き取りを行ったり、福祉サービスや制度についてまとめたガイドブックの作成に取り組んだ。

### (2) 厚木地域の課題（項目名）

#### 1 在宅医療の支援体制の構築

- (1) 医療（在宅医、看護師）のサポートが受けにくい
- (5) 福祉現場での医療従事者の確保
- (8) コーディネーター（主たる相談者）が不在

### (3) 課題の具体的内容

※(2)で選択した課題（項目名）についての具体的な内容を自由に記載してください。

- (1) 地域の小児科等で診察を受けることができず、かかりつけの病院が遠方
- (5) 医療従事者が配置されている事業所であっても、利用希望者に対し、従事者の数が足りず、希望する日数の利用ができない
- (8) 医療・子育てから福祉へ引き継ぐとき、両親には障害受容ができていないケースが多く、コーディネーター（主たる相談者）が不在になる

### (4) 課題解決に向けて障壁（原因）になっていること

※課題解決に向けて原因となっていることについて記載してください。

- ・人材が確保できないこと
- ・専門医療機関が、生活している地域から遠く、地域でのコーディネートが遅れてしまうこと

※1 記載幅は、適宜調整してください。

## 第1回厚木地域小児等在宅医療連絡会議 事前調書

機関名：訪問介護てだすけ

### (1) 各関係機関の小児等在宅医療（医療を必要とする小児の在宅生活）にかかるこれまでの取り組み（※取り組みについてのパンフレットや資料があればお持ちください）

※各関係機関の小児等在宅医療にかかるこれまでの取り組みについて記載してください。

○訪問介護職員による喀痰吸引の実地

### (2) 厚木地域の課題（項目名）

※小児等在宅医療を進めるにあたっての厚木地域の課題について、別添1「茅ヶ崎地域における小児等在宅医療の課題」を参考に、課題（項目名）を記載してください。（例：「1 在宅医療の支援体制の構築サポート体制」）「茅ヶ崎地域における小児等在宅医療の課題」一覧に記載がないものでも構いません。

○在宅医療の支援体制の構築 人材育成

### (3) 課題の具体的内容

※(2)で選択した課題（項目名）についての具体的な内容を自由に記載してください。

○喀痰吸引の資格を持つ訪問介護員がいない。

### (4) 課題解決に向けて障壁（原因）になっていること

※課題解決に向けて原因となっていることについて記載してください。

○訪問介護員が実際に不足している為、働きながら資格を取りに行く時間が取れない。

※1 記載幅は、適宜調整してください。

## 第1回厚木地域小児等在宅医療連絡会議 事前調書

機関名： 厚木児童相談所

### (1) 各関係機関の小児等在宅医療（医療を必要とする小児の在宅生活）にかかるこれまでの取り組み（※取り組みについてのパンフレットや資料があればお持ちください）

※各関係機関の小児等在宅医療にかかるこれまでの取り組みについて記載してください。

- ・在宅重症心身障害児者訪問指導事業
- ・在宅重症心身障害児療育連絡会議

### (2) 厚木地域の課題（項目名）

※小児等在宅医療を進めるにあたっての厚木地域の課題について、別添1「茅ヶ崎地域における小児等在宅医療の課題」を参考に、課題（項目名）を記載してください。（例：「1 在宅医療の支援体制の構築サポート体制」）「茅ヶ崎地域における小児等在宅医療の課題」一覧に記載がないものでも構いません。

○場の確保（緊急時の一時保護先）

### (3) 課題の具体的内容

※(2)で選択した課題（項目名）についての具体的な内容を自由に記載してください。

児童相談所の役割として、緊急時に「一時保護」を行うが、その場の確保に苦慮することが多い。また、重心認定をすることができない医療を必要とする障害児の場合、さらに場の確保に苦慮する。

### (4) 課題解決に向けて障壁（原因）になっていること

※課題解決に向けて原因となっていることについて記載してください。

- ・物理的に、「場」が不足している。
- ・施設や病院の空き状況がわからない。
- ・本人の状況、生活環境等の把握が難しい。  
(情報共有の難しさ、機関連携の課題)

※1 記載幅は、適宜調整してください。

## 第 1 回厚木地域小児等在宅医療連絡会議 事前調書

機関名：厚木市福祉総務課

### (1) 各関係機関の小児等在宅医療（医療を必要とする小児の在宅生活）にかかるこれまでの取り組み（※取り組みについてのパンフレットや資料があればお持ちください）

#### 療育支援事業「たんぽぽ教室」

医療的ケアを必要とするお子さんについての相談はH26 年度 2 件、H27 年度 3 件ありました。お子さんの年齢や状態により支援内容は変わりますが、保育士 2 名、看護師 1 名で対応するグループ指導や、PT 等の個別指導を提供しています。

#### 児童発達支援事業「ひよこ園」

3 歳以上就学前までのお子さんは、現在、直営で実施している、ひよこ園での支援を提供しています。週 1 日から 3 日のグループ療育や、主治医の許可のもと、通年利用できる温水プールでのプール指導、音楽療法などを行っています。医療的ケアの必要なお子さんはH26 年度 3 名、H27 年度 3 名、平成 28 年度 4 名の登録があり、保育士 2 名、看護師 1 名で対応をしております。また、個別指導については、PT、OT でお子さんのニーズに応じて支援をしております。

### (2) 厚木地域の課題（項目名）

#### サポート体制・関係機関とのネットワーク構築

人材育成 ・コーディネーター（主たる相談者）が不在

その他 ・地域の保育所・幼稚園への入園

### (3) 課題の具体的内容

#### ・関係機関とのネットワーク構築

相談を受けた際に、関係する支援機関がどこなのか、医療面・支援内容等についての情報の有無などにより、提案する内容がかわってくる。相談者からの情報では限りがあるため、あらかじめ情報を収集しておく必要がある。相談者に対しての回答が二度手間になってしまうことを防ぐためにも、必要だと考える。

相談支援を行う上で、その子に関わる全ての機関が情報を共有することはとても大切なことだと認識している。関係機関同士のネットワークをいち早く構築し、一貫した支援を行うことが必要である。

#### ・コーディネーター（主たる相談者）が不在

本市では障がい福祉サービス全般を把握する担当課と実際に療育支援、療育相談を行う担当課、そして出生直後から家族を支える母子保健担当課がそれぞれ独立して存在するため、全てのライフステージを通じて一貫して相談にのり、支援を行う担当者がつくりづらい状況にある。担当のコーディネーターが、相談者に寄り添い、きめ細かな支援の提案をすることが望まれる。

#### ・その他⇒地域の保育所・幼稚園への入園

医療的ケアが必要なお子さんが地域の保育所・幼稚園への入園を希望する場合の受入れ体制が整っていないことが課題と考える。市内には、看護師を配置している園が非常に少ないため、ほとんどの医療的ケアのあるお子さんは入園することができない。定型発達のお子さんとは生活の場を共有し良い刺激をもらいたいと願う保護者の思いも、実現するのは、ほんのわずかであるのが現状である。

#### (4) 課題解決に向けて障壁（原因）になっていること

- ・関係機関とのネットワーク構築

機関ごとの情報が共有できていない。

対象者に関わっている機関がそれぞれの支援を行っているので、支援が途切れ途切れになっている。

- ・コーディネーター（主たる相談者）が不在

実際にコーディネーター（主たる相談者）が不在のため、人材育成が必要である。

- ・地域の保育所・幼稚園への入園

実際に、保育所・幼稚園において、医療的ケアに対応可能な人材（看護師等）が不足している。

※1 記載幅は、適宜調整してください。

## 第 1 回厚木地域小児等在宅医療連絡会議 事前調査

機関名：厚木市障がい福祉課

### (1) 各関係機関の小児等在宅医療（医療を必要とする小児の在宅生活）にかかるこれまでの取り組み（※取り組みについてのパンフレットや資料があればお持ちください）

※各関係機関の小児等在宅医療にかかるこれまでの取り組みについて記載してください。

厚木市障がい福祉課の取り組みは、平成 24 年度に実施した「重症心身障害児を抱える母の会（ちゅーりっぷの会）」との意見交換会で挙げられた意見及び平成 25 年度に「厚木市児童発達支援在り方検討委員会」によりまとめられた「厚木市の療育支援の在り方についての提言書」を受け、気管切開や人工呼吸器、頻回なたんの吸引等の医療ケアが必要な障がい児の安定した在宅生活と家族を支援する施策として、次の 2 つの事業を市の単独事業として開始。

1 緊急時等の施策 平成 26 年度から、医療ケアを要する 15 歳以下の重症心身障害児を介護する保護者の体調不良、事故等の緊急時等に厚木市立病院小児科で障がい児を受入れる「厚木市重度障害児メディカルショートステイ事業」を開始。

2 レスパイト施策 今年度から、介護する家族が休息時間等を確保できるよう、重症心身障害児（者）が訪問看護を利用した際に看護師による対応時間を最長 3 時間まで上乗せをする「厚木市重度障害者訪問看護支援事業」を開始。

### (2) 厚木地域の課題（項目名）

※小児等在宅医療を進めるにあたっての厚木地域の課題について、別添 1「茅ヶ崎地域における小児等在宅医療の課題」を参考に、課題（項目名）を記載してください。（例：「1 在宅医療の支援体制の構築サポート体制」）「茅ヶ崎地域における小児等在宅医療の課題」一覧に記載がないものでも構いません。

「1 在宅医療の支援体制の構築 場の確保」

### (3) 課題の具体的内容

※(2)で選択した課題（項目名）についての具体的な内容を自由に記載してください。

医療的ケアを要する障がい児はほぼ 24 時間切れ間のない支援が必要となり、主に介護する母親の負担が大きく、介護以外にも家事、きょうだいの育児等もあり慢性的な疲労を抱えている場合が多い。また、介護により外出が制限され、生活必需品の購入、きょうだいの行事ごとへの参加等も困難な場合もある。

しかしながら、医療ケアの対応が可能な施設はごく限られており、さらに受け入れが可能であっても受入れ枠に限りがあるため、利用日数や利用回数が制限され、十分に利用できていない。また、年々医療的ケアを要する障がい児が年々増加の一途をたどっているため、施設の不足等により、今まで以上に利用が制限されることが予想される。そのため、障がい児本人、介護する家族が安心して生活するには、入所・通所等を充実させることが重要であると捉えている。

### (4) 課題解決に向けて障壁（原因）になっていること

※課題解決に向けて原因となっていることについて記載してください。

医療的ケアに対応できる医療・介護福祉人材が不足していること、また対応した場合に施設等へ支払われる報酬額が十分ではないことが入所・通所施設等の場が不足している原因であると考えている。



## 第1回厚木地域小児等在宅医療連絡会議 事前調査

機関名：神奈川県立座間養護学校

### (1) 各関係機関の小児等在宅医療（医療を必要とする小児の在宅生活）にかかるこれまでの取り組み（※取り組みについてのパンフレットや資料があればお持ちください）

※各関係機関の小児等在宅医療にかかるこれまでの取り組みについて記載してください。

- ・ 課業時間中における神奈川方式による医療ケア等実施（巡回診療型診療所と担当医制度を核とする「神奈川県立養護学校医療ケア等支援事業」による取り組み、看護師2名と兼務看護師1名（相模原中央支援学校との兼務）配置、校内における医療ケア等の手引き作成、保護者の申請を受けてのマニュアル検討、医療ケア等担当教員の研修等）
- ・ 訪問教育の実施
- ・ 保護者からの相談への対応（教育相談コーディネーター、自立活動教諭（専門職））
- ・ ケース会議への参加、ケース会議の設定

### (2) 厚木地域の課題（項目名）

※小児等在宅医療を進めるにあたっての厚木地域の課題について、別添1「茅ヶ崎地域における小児等在宅医療の課題」を参考に、課題（項目名）を記載してください。（例：「1 在宅医療の支援体制の構築 サポート体制」）「茅ヶ崎地域における小児等在宅医療の課題」一覧に記載がないものでも構いません。

- ・ 「1 在宅医療の支援体制の構築 サポート体制」
- ・ 「1 在宅医療の支援体制の構築 人材育成」
- ・ 「1 在宅医療の支援体制の構築 場の確保」

### (3) 課題の具体的内容

※(2)で選択した課題（項目名）についての具体的な内容を自由に記載してください。

- ・ 「(4) 自治体の支援体制の構築」について、スクールバスのバスポイントや学校までの登下校の送迎について、自家用車が必要になるケースが多く、免許・自家用車がない場合や保護者が怪我や家庭の事情等で送迎できなくなった場合の通学支援手段がない。  
また、児童期における入浴サービスの利用についても、保護者の状況によって必要となる場合がある。
- ・ 「(6) ライフステージに応じた在宅療養環境の構築」について、学校における医療ケア等への対応に関して、一人当たりのケア数の増加やケア内容の高度化にともない教育的な活動と医療ケア等の対応のバランスをどのようにとっていくべきかが課題となってきた。
- ・ 「(7) 医療ケアに対応可能な人材不足」について、厚木地域に限ったことではないが、校内で医療ケア等を実施する看護師が不足しており、行事等の運営の際に保護者の手を借りなければならない状況にある。
- ・ 「(8) コーディネーター（主たる相談者）が不在」について、地域で生活する上で医療とのつながりが必須な場合に、学校の教育相談コーディネーターだけでは対応しきれず、病院のSWや訪問看護事業

所、相談支援事業所、障がい福祉課、保健師等と連携しながらのケース会議を実施することになるが、どこが主となって運営していくのか判断に困ることがある。

- ・「（９）短期入所・放課後等の利用可能な施設が少ない」について、医療ケア等がある児童生徒が利用できる事業所が少なく、新規で利用することが難しい現実がある。また、卒業後の進路先としての生活介護施設についても同様であり、卒業後の生活に不安を抱いている保護者が多い。

#### （４）課題解決に向けて障壁（原因）になっていること

※課題解決に向けて原因となっていることについて記載してください。

- ・通学支援については、学校側が対応できる範囲と福祉が対応できる範囲、ボランティアが対応できる範囲のすりあわせをする必要がある。また、それぞれの対応範囲から抜け落ちてしまう部分についてどこが対応可能か検討する場と機会を設定する必要がある。  
また、厚木市と学校の位置関係から福祉サービスの対応が困難な場合もある。
- ・人材育成については、研修の場をどう作っていくかということもあるが、看護師や福祉介護職の待遇も障壁となっていると思われる。
- ・コーディネーターについては、医療・福祉・教育とそれぞれにコーディネーターが存在しており、それぞれの分野での相談対応の中心となりうるが、トータルでコーディネートする担当が、ライフステージによって変わるのか、それとも専門性によって変わるのかその判断が難しい。また、ライフステージに関係なくトータルでコーディネートする立場のコーディネーターを新たに置くことができるかどうかということもある。
- ・医療ケア等に対応できる施設・事業所数が限られていることが、進路先の確保、人材育成、サポート体制等さまざまな課題に影響していると考えられる。

※１ 記載幅は、適宜調整してください。

## 第1回厚木地域小児等在宅医療連絡会議 事前調書

機関名：神奈川県立座間養護学校 P T A

### (1) 各関係機関の小児等在宅医療（医療を必要とする小児の在宅生活）にかかるこれまでの取り組み（※取り組みについてのパンフレットや資料があればお持ちください）

※各関係機関の小児等在宅医療にかかるこれまでの取り組みについて記載してください。

### (2) 厚木地域の課題（項目名）

※小児等在宅医療を進めるにあたっての厚木地域の課題について、別添1「茅ヶ崎地域における小児等在宅医療の課題」を参考に、課題（項目名）を記載してください。（例：「1 在宅医療の支援体制の構築 サポート体制」）「茅ヶ崎地域における小児等在宅医療の課題」一覧に記載がないものでも構いません。

- ・「1 在宅医療の支援体制の構築 人材育成」
- ・「1 在宅医療の支援体制の構築 場の確保」

### (3) 課題の具体的内容

※(2)で選択した課題（項目名）についての具体的な内容を自由に記載してください。

- ・「(7) 医療ケアに対応可能な人材不足」は施設が少ないため、ケア対応可能な人も増えず、施設も増えない。
- ・「(8) コーディネーター（主たる相談者）が不在」は、ほぼ全てを母親がやっていることは不安である。全ての情報が集まっている所がない。マネジメントを手伝ってくれる人が欲しい。

### (4) 課題解決に向けて障壁（原因）になっていること

※課題解決に向けて原因となっていることについて記載してください。

- ・卒業後、利用可能な施設が少なく、どこかに毎日行かれるところがあるのか、不安です。
- ・毎月予定を組んでサービスを利用し続けなければならないのは不安である。情報が1ヶ所に集まっていて、マネジメントしてくれる人がいると良い。

※1 記載幅は、適宜調整してください。

## 第1回厚木地域小児等在宅医療連絡会議 事前調書

機関名：こども医療センター 母子保健推進室

### (1) 各関係機関の小児等在宅医療（医療を必要とする小児の在宅生活）にかかるこれまでの取り組み（※取り組みについてのパンフレットや資料があればお持ちください）

※各関係機関の小児等在宅医療にかかるこれまでの取り組みについて記載してください。

- ①妊娠中に胎児異常が指摘され、出産後 NICU に長期入院予定の妊婦を対象として家族教室を開催し、対象妊婦の地区担当保健師を教室にお呼びし、顔合わせと相談先・地域サービスの導入を実施している。
- ②災害時対策として、各市区町村の災害時要援護者登録先の情報収集し、希望者へ周知ができる体制づくりを行った。

### (2) 厚木地域の課題（項目名）

※小児等在宅医療を進めるにあたっての厚木地域の課題について、別添1「茅ヶ崎地域における小児等在宅医療の課題」を参考に、課題（項目名）を記載してください。（例：「1 在宅医療の支援体制の構築サポート体制」）「茅ヶ崎地域における小児等在宅医療の課題」一覧に記載がないものでも構いません。

### (3) 課題の具体的内容

※(2)で選択した課題（項目名）についての具体的な内容を自由に記載してください。

### (4) 課題解決に向けて障壁（原因）になっていること

※課題解決に向けて原因となっていることについて記載してください。

※1 記載幅は、適宜調整してください。

## 第1回厚木地域小児等在宅医療連絡会議 事前調書

機関名：神奈川県立こども医療センター  
退院・在宅医療支援室

### (1) 各関係機関の小児等在宅医療（医療を必要とする小児の在宅生活）にかかるこれまでの取り組み（※取り組みについてのパンフレットや資料があればお持ちください）

※各関係機関の小児等在宅医療にかかるこれまでの取り組みについて記載してください。

こども医療センターでは在宅医療推進する仕組みとして、「在宅医療審査会」があり、その下部組織に「長期入院検討部会」を置いている。その内容には、医療ケアを在宅で実施するために必要な事項を定めている。在宅人工呼吸器については、他職種が関わりチームアプローチできるチェックシートを用いたツールがある。地域や在宅で継続するために患者家族の在宅支援を行っている。

- ・医療機関での在宅医療・ケアの評価や家族支援のための「在宅医療評価入院」の受け入れ
- ・支援者の技術支援を行い地域での受け入れ拡大に結び付けるための「医療ケア実技研修会」の開催
- ・地域の訪問看護師とともに患者自宅訪問し、ケアの効率的な引継ぎとケア方法の修正を行い、医療ケアに対する不安軽減を図り在宅に移行するための支援として「退院後訪問看護」を実施。
- ・小児在宅医療を支える看護師が特性を活かした役割分担や連携について意見交換を行う「看護師交流会」の開催。
- ・小児在宅医療を受け入れる在宅支援診療所の拡大を図るための、在宅医療連携カンファレンス実施している。

### (2) 厚木地域の課題（項目名）

※小児等在宅医療を進めるにあたっての厚木地域の課題について、別添1「茅ヶ崎地域における小児等在宅医療の課題」を参考に、課題（項目名）を記載してください。（例：「1 在宅医療の支援体制の構築サポート体制」）「茅ヶ崎地域における小児等在宅医療の課題」一覧に記載がないものでも構いません。

### (3) 課題の具体的内容

※(2)で選択した課題（項目名）についての具体的な内容を自由に記載してください。

### (4) 課題解決に向けて障壁（原因）になっていること

※課題解決に向けて原因となっていることについて記載してください。

※1 記載幅は、適宜調整してください。

## 第1回厚木地域小児等在宅医療連絡会議 事前調書

機関名：県立総合療育相談センター

### (1) 各関係機関の小児等在宅医療（医療を必要とする小児の在宅生活）にかかるこれまでの取り組み（※取り組みについてのパンフレットや資料があればお持ちください）

- 日常業務 ・ 訪問による療育支援：巡回リハビリテーション（H27年度 厚木地域 17名）  
在宅重症心身障害児者訪問指導（H27年度 厚木地域 3名）
  - ・ 来所による療育支援：外来診療、訓練（個別療育・集団療育）
  - ・ 短期入所（平成27年度 厚木地域 2名）
- H27年度「茅ヶ崎地域小児等在宅医療連絡会議」短期入所等連絡会議の実施（別添報告書参照）
  - ・ 重心施設間の情報共有と医療的ケアの必要な児の受入に際しての課題整理

### (2) 厚木地域の課題（項目名）

- 1 在宅医療の支援体制の構築 サポート体制
  - 2 情報活用
- (3) 関係機関とのネットワーク構築  
(1) 在宅医療の医療・福祉資源の把握

### (3) 課題の具体的内容

医療的ケアが必要な方に対応できる社会資源は限られている。福祉サービスで対応可能な範囲、医療機関でできる対応等、相談窓口が利用者のニーズに沿った必要な情報を的確に提供できるよう、県がこれらの情報を広域的に把握し、市町村の窓口や相談機関等に提供していく仕組みが必要である。

### (4) 課題解決に向けて障壁（原因）になっていること

※課題解決に向けて原因となっていることについて記載してください。

※1 記載幅は、適宜調整してください。

## 第1回厚木地域小児等在宅医療連絡会議 事前調書

機関名：北里大学東病院小児在宅支援センター

### (1) 各関係機関の小児等在宅医療（医療を必要とする小児の在宅生活）にかかるこれまでの取り組み（※取り組みについてのパンフレットや資料があればお持ちください）

学校法人北里研究所では、神奈川県県央、北相、相模原地域の医療への貢献をさらに充実させるため、北里大学病院及び北里大学東病院のリノベーションを新病院プロジェクトとして進めてまいりました。昨年度、地域に開かれた病院として北里大学東病院のリニューアルオープンを行い、新たに複数のセンター機能の中に、小児在宅支援センターを開設いたしました。

当センターには、現在重症心身障害児のレスパイト（メディカルショートステイ）、在宅移行支援対応の病床 10 床・デイケア（日帰り短期ベッド）5 床を稼働させて、地域の重症心身障害児とその家族を支援する体制を作りました。ベッド数については、順次増床予定です。

### (2) 厚木地域の課題（項目名）

#### ■サポート体制

現在、数名厚木市の子どもたちが利用してくれておりますが、特にサポート体制などに課題があった方はいません。

#### ■その他

### (3) 課題の具体的内容

#### ■その他（福祉サービスの利用について）

あるお母様からは入浴サービスを認めてもらえなかったというご意見は伺いました。市からの説明としては、まだ年齢が小さいということのようでしたが、人工呼吸器があるような医療ケアが多い子などは例外対応などがあると利用しやすいと思われます。同じ年齢・医療ケアの子で相模原市では入浴サービスを認めてもらっている現状はあります。

### (4) 課題解決に向けて障壁（原因）になっていること

※課題解決に向けて原因となっていることについて記載してください。

※1 記載幅は、適宜調整してください。

## 第1回厚木地域小児等在宅医療連絡会議 事前調書

機関名：神奈川県総合リハビリテーションセンター

### (1) 各関係機関の小児等在宅医療（医療を必要とする小児の在宅生活）にかかるこれまでの取り組み（※取り組みについてのパンフレットや資料があればお持ちください）

※各関係機関の小児等在宅医療にかかるこれまでの取り組みについて記載してください。

- 神奈川リハビリテーション病院小児科、リハビリテーション科等での診療、リハビリ、在宅支援等
  - 七沢療育園、七沢学園での療育相談、短期入所等
  - 地域リハ支援センターでのリハ専門相談、研修、地域リハ支援ネットワークづくり、情報提供など
- ※資料参照

### (2) 厚木地域の課題（項目名）

- 1 在宅医療の支援体制の構築
  - サポート体制
    - (3) 関係機関のネットワーク構築
    - (6) ライフステージに応じた在宅医療環境の構築
  - 人材育成
    - (7) 医療ケアに対応可能な人材不足
    - (8) 家族を含めた支援全般を見通せるコーディネーターが不在

### (3) 課題の具体的内容

- (3) (6) 成長に合わせた子どもと親への、先々の予測をもった対応と情報提供が必要。  
疾患・障害の特性を知り、医療ケアやリハビリに関するサービスが適切に提供できるような機関連携の仕組みづくり。まずは市内外の関係機関の役割把握と相互理解が必要。
- (7) (8) 医療の知識をもって、教育・福祉などのサービスのコーディネートや親支援などを行う中心的な機関はどこか。医療ケアや身体障害の相談ができる相談機関や事業所が少ない。

### (4) 課題解決に向けて障壁（原因）になっていること

- (3) (6) 医療と福祉の専門機関をつなぐネットワークが希薄。
- (7) (8) 医療と福祉の連携のための取り組みや人材育成を主体的に実施する機関が不明確。